

ウィンターカップ 2025 静岡県予選 大会展望

中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

第 78 回全国高校バスケットボール選手権大会（ウィンターカップ 2025）静岡県予選が令和 7 年 10 月 18 日に開幕する。11 月 8 日、9 日の静岡県武道館決戦で県代表が決まり、12 月 23 日から高校バスケの聖地・東京体育館および武蔵野の森総合スポーツプラザで行われる全国選手権大会へ出場する。今年は 2 年ぶりに男子の全国出場枠が「2」に増枠となり、藤枝明誠を筆頭にした優勝争いと「ウィンター出場権争い」という 2 つの大きな興味が並び、さらに女子は大会連覇が続く浜松開誠館を脅（おびや）かすチームが現れるなど、男女ともに近年にない見どころ満載、展望する側にとっては予想が非常に難しい大会となる。

まず大会レギュレーションに関する確認をしておきたい。女子は例年通り 3 位決定戦を行わない完全ノックアウト方式のトーナメント制、優勝チームのみが全国の檜舞台を踏む。

一方、男子は一昨年同様ベスト 8 が決まった段階でブロック決勝を行い、勝った 4 チームが県武道館決戦の 3 日間で決勝リーグを戦い、上位 2 チームが全国切符を掴む。県内でバスケに励む高校生の誰もが憧れる聖地・県武道館でのプレー、女子はベスト 8 でその夢を果たすことが出来るが、男子は今年に限ってはベスト 8 止まりでは県武道館に辿り着けないので、まずは何としてでも 4 強入りを目指したい。4 強に入れば総当たりのリーグ戦となり、対戦順・相性・得失点差・当日のコンディションなどさまざまな要素が入り乱れ、全チームに全国のチャンスが到来する。過去高校の大会では決勝リーグで数多くのドラマが生まれてきた。当然上位 3 チームが 2 勝 1 敗、または 2 枠目争いで 3 チームが 1 勝 2 敗で並び、ゴールアヴェレージ(得失点率)で優勝・全国出場が決まったこともあったが、忘れられないのが今年の県新人・女子の決勝リーグ。初戦で勝った 2 チームが第 2 戦でともに敗れ 4 チームが 1 勝 1 敗で並び、全チームが悲願の優勝から東海新人出場すら逃してしまう 4 位までの「天国と地獄」を味わう可能性を秘めて最終戦が同時にスタート、互いに目の前の試合の勝利を掴むのは当然だが隣のコートで戦うライバルの勝敗を気にしながらの争いともなり、最後は該当チーム同士直接対決の勝敗で順位が決定し、さらにこの時はリーグ戦途中で約 10 年間続いた浜松開誠館の県内連勝が止まるというエポックメイキングな出来事も重なって一段とセンセーショナルな大会となったのは記憶に新しい。今回は県武道館のメインコートを使用するため試合の同時展開はできず、決勝リーグ第 2 戦と最終戦は各 2 試合が時間差で行われることとなるが、男女とも例年以上に盛り上がる大会になることは必至である。

その他、通常の試合ではモルテンまたはミカサの 8 面体球を、県武道館シリーズからは全国大会同様モルテン製 12 面体球を使用、メディア情報としては今大会も県協会公式アプリで全試合の結果を速報、書籍では（株）くまふメディア制作事務所が 4

年連続でオールカラーの大会特集号「D-sports SHIZUOKA」を発行、同じく西部地区上位校を中心に特集した「Jr. Athlete PLUS」も9年連続で無料刊行、TV・動画コンテンツ関連では11/8,9の2日間は例年同様トコちゃんねる静岡とウィンディにて全試合ケーブルTV生中継、また男子決勝リーグ第2,3戦と女子決勝という全国出場に直接かわる試合はソフトバンクのバスケットLIVEでもライブ配信する。この原稿を執筆している時点で地上波テレビでの放送は決まっていないが、去年は静岡朝日テレビにて深夜枠で録画中継ながら23年ぶりに男子決勝戦が放送され、今年も現在テレビ局と鋭意交渉中、進捗状況はHPで随時発信していく。

現在今年で4年目となるU18日清食品ブロックリーグも行われていて、県代表として藤枝明誠(男子)と浜松開誠館(女子)が出場している。トップリーグを含めたリーグ戦は今年からさらに進化し他地域との試合も積極的に編成され、本県も東海ブロックだけでなく関東や東北のチームと公式戦で対戦する機会を与えられた。今まで全国大会以外では交わることのなかった他地域の強豪との拮抗した試合を繰り返すことでますます総合力の完成度が確固たるものになることは間違いない。またユース・クラブチームも参加、グループリーグ優勝チームには上位リーグであるU18日清食品トップリーグ参入プレーオフ出場権も与えられることも選手の励みとなっている。今年はトップリーグも県内初開催、ブロックリーグも6回県内開催が予定されており、我々バスケット愛好家も身近で全国レベルの試合が見られることはこの上ない幸せである。その他の県内チームも県協会が主催するU18バスケットボールリーグ2025静岡に参加して毎週末上位リーグ昇格を目指して切磋琢磨しており、バスケットに「リーグ戦文化」が完全に根付いたことは喜ばしい限りである。

さらにはこの夏地元・草薙このはなアリーナで行われた国民スポーツ大会東海ブロック予選(東海国スポ)でU16編成の少年男子が見事準優勝、秋に滋賀県で行われる国民スポーツ大会(国スポ)に5年連続で出場することになり、静岡県高校バスケットの実力は確実に底上げされたことも証明した。

大会展望の執筆に際して、今回も山口裕史県協会広報副委員長((株)矢崎部品)に協力していただき原稿の参考にさせていただいた。この場を借りて厚く御礼を申し上げますとともに、私の残された在任期間中に私が今まで培ってきた出来る限りのノウハウを伝授させていただき、いつか後継者として県バスケット協会広報委員会のしかるべき要職で活躍してくれることを心から願っている。

【男子】

昨年の東山(京都)とウインター史上に残る歴史的な勝負を繰り広げてベスト 8、現在この大会 3 連覇中、県内大会も 10 連覇中、県内連勝も 72 まで伸ばし東海総体でも全国制覇の経験を持つ中部大第一(愛知)にダブルスコアで勝利して東海無敵を堅持、静岡県に貴重な「ウインター出場枠プラスワン」をもたらした**藤枝明誠**が大本命である。その**藤枝明誠**を追いかけて 2 枠目の全国出場権、そして優勝をも狙う**浜松開誠館**が絶対的対抗馬、それを県総体 3 位から 6 位の**静岡学園・静岡商業・浜松学院興誠・沼津中央**が実力伯仲の横一線に並び追いかける展開が予想される。今年はまず決勝リーグ進出を賭けたブロック決勝が大きな山場となりそうな予感がする。

【女子】

今大会も 9 連覇中、県内大会も 26 連覇まで伸ばした**浜松開誠館**中心の優勝争いになることは間違いない。しかし今年は毎年恒例の枕詞に「連勝」の 2 文字がない。ご存じの通り、県新人で長年続いた連勝を東海大静岡翔洋にストップされ、翔洋が一躍ライバルとして急浮上、その**東海大静岡翔洋**は県総体でも東海新人ベスト 8 の市立沼津・浜松南に連勝、8 年ぶりに準優勝を飾って 2 年連続の東海総体出場も果たし、今回もストップ・ザ・開誠館の最右翼に挙げられる。順調に行けば今年 1 勝 1 敗で迎える両チームの決着戦が決勝の大舞台で行われる可能性が高いが、男子同様県総体 3 位から 6 位の**浜松南・浜松学院興誠・常葉大常葉・市立沼津**が 2 強を猛追しており、準決勝・準々決勝での波乱も十分起こりうる展開が予想され、まさしく「群雄割拠」という言葉がふさわしい大会となるであろう。